

前橋工科大学 令和5年度業務実績に関する評価意見【全体】

資料2

No.	評価委員	分類	評価内容	評価報告書への反映状況
①	花泉委員長	全体的事項 特筆すべき成果	A, B評価の割合を年々増加させ、R4年度以降は100%を維持しており、コロナ禍の中でもじっと耐えながら工夫を重ねてきたことが良い結果となって現れたものであって、高く評価できる。	全体意見に反映
②	花泉委員長	今後に対する意見	論文投稿数については概ね増加傾向を維持していると言えるが、今後は論文掲載数やインパクトファクター等の質についても向上させ、結果的に外部資金の増加や目に見える形での成果に繋がっていくことを期待したい。	項目別評価No. 17に反映 (今後に期待する事項)
③	後藤委員	全体的事項	令和5年度年度業務実績全体の実施状況は、70項目のうち年度計画を上回って実施しているA評価が3項目、年度計画を計画どおりに実施しているB評価が67項目で、昨年度に引き続き70項目の全てがA評価又はB評価となったことは評価できます。また、A評価が令和4年度は1項目であったのに対し、令和5年度は3項目に増加していることから、昨年度に比べさらに円滑に実施できていると評価できます。	全体評価に反映
④	後藤委員	特筆すべき成果	入学者選抜の実施では、18歳人口が減少している中で、志願者数が昨年度に比べて増加しており評価できます。大学の魅力と共にアドミッションポリシーを適切に発信し、高校生から選ばれる大学であり続けることを期待します。	項目別評価No. 5に反映 (評価できる事項)
⑤	後藤委員	特筆すべき成果	市民向けの科学教室の開催では、4年ぶりの開催であるにもかかわらず、2日間で2,724人の親子等の参加があり、前橋市内の来場者が80%を超えたことは評価できます。地域貢献だけでなく、前橋工科大学に対する地域からの関心を高めていくためにも重要な成果であると考えます。	全体評価に反映 項目別評価No. 27に反映 (評価できる事項)

⑥	後藤委員	特筆すべき成果	ふるさと納税による寄付では、令和5年度の寄附金総額が大幅に増加し、過去5年間で最高額となったことは、地域の方々の関心と期待の高さの表れであるとともに、自主的・自立的な大学運営の一助となるため、評価できます。	項目別評価No. 50に反映 (評価できる事項)
⑦	後藤委員	今後に対する意見等	研究センター事業では、新設された研究センター事業として、公募型共同研究に9件の応募があり4件が採択され、9月から共同研究が開始されました。前橋工科大学の研究の柱となる2つの研究センターの事業が順調に進み、成果が出ることを期待したいと思います。	項目別評価No. 22に反映 (今後に期待する事項)
⑧	伊藤委員	全体的事項	令和5年度についても、令和4年度から引き続き、全項目がA評価もしくはB評価となっており、年度計画を着実に実行できている点は評価できると考えます。	全体評価に反映
⑨	伊藤委員	特筆すべき成果	令和5年度は、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、従来まで制限されてきた地域貢献事業や海外大学との国際交流事業が活発に行われたことは評価できると考えます。	全体評価に反映
⑩	伊藤委員	特筆すべき成果	こども科学教室を4年ぶりに対面開催で実施し、子供達が科学技術を直接体験できる場を設けたことや当該イベントに対する参加者の満足度も高かったことは、子供達に対して理科や科学技術への興味・関心を持ってもらうきっかけともなり、未来に向けた地域貢献事業として高く評価できる取り組みであると考えます。	全体評価に反映
⑪	伊藤委員	特筆すべき成果	当該イベントの実施などにより、中期計画における数値目標(2)地域貢献に関する事業への学生の参加数(目標値:単年度200名以上)を達成することが出来たことも、評価できると考えます。	項目別評価No. 30に反映 (評価できる事項)
⑫	伊藤委員	特筆すべき成果	国際交流事業としても、協定締結大学のみではなく、さくらサイエンスプログラムを活用した新たな国際交流の取り組みを行ったことは、今後の国際交流事業の拡大と充実につながり、教員の研究及び学生の学びの幅を広げることとして、高く評価できると考えます。	全体評価に反映

⑬	伊藤委員	今後に対する意見等	令和5年度の業務実績において、課題が出ている項目（授業改善アンケートの回答率の向上、数学・理科科目の授業体制の変更に対する課題など）については、課題解決に向けた取組みを着実に実行し、学生・教員にとってより充実した教育の場となることを期待します。	全体評価に反映
⑭	伊藤委員	今後に対する意見等	令和5年度は中期目標期間の5年目であり、中期計画における数値目標未達の項目に対して目標達成に向けた取組みを加速する必要があったかと思いますが、（１）学術団体論文誌等への論文の掲載数、（３）市内・県内企業との共同研究実施件数、（４）外部資金の金額については、計画未達となっており、また、どの項目に対しても令和4年度よりも実績が低くなっている状況にあり、目標達成が懸念されます。そのため、中期目標期間最後の1年である令和6年度は、目標値達成に向けた取組みを強化し、大学のレベルアップにつなげることを期待します。	全体評価に反映
⑮	高山委員	全体的事項	全体としては年度計画に沿って順調に実施されている。すべて業務実績について「B」以上と評価したい。	全体評価に反映
⑯	高山委員	今後に対する意見等	このうち、No. 27「こども科学教室」とNo.30「国際交流の充実」はA評価とするが、その評価の根拠が弱いように思う。前者については、対面開催での実施、来場者数の増加は評価できるが、厳しい見方をすればコロナ禍以前の実施状況に復したという評価に留まるのではないかと。特筆すべきイベントの内容等、A評価とすべき説明がほしい。 後者についても、コロナ禍によって実施困難であった国際交流が復活したという評価に留まってしまうので、A評価とするにはJSTプログラムに採択されたことの意義を説明する必要があると思う。	評価委員会において大学から回答を説明予定 評価委員会において評価の変更の有無及び文言の反映について確認予定
⑰	高山委員	今後に対する意見等	今後の課題としては、No. 59「キャリアアセスメント」に示すように、学部2年次の学生への目配りを望みたい。学生本人にとっては大学にも慣れ、時間的な余裕のある学年であるが、メンタル面での不調を抱えてしまう学生も多い。いずれの大学でも対応を迫られるように思う。	項目別評価No. 59に反映 (今後に期待する事項)

⑬	湯浅委員	全体的事項	概ねの計画が順調に進んでいることが確認でき、B評価が多く見受けられますが、すでに計画のとおりの実施が行えているもので、定量的な数値目標がないものに関しては、A評価を増やし、他のB評価の計画実施に注力するという考え方もあると思いました。そうすることで、現在のB評価の計画のさらに細かい進捗程度が可視化でき、全体の底上げにつながると考えます。 いずれにしても、すべての計画において、B以上の評価が得られていることはとても素晴らしいと思いました。	法人のA評価は年度計画を上回って実施しているものについて自己評価するものであり、評価委員会のA評価は中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にあるものについて評価するものであることから、A評価を増やすのは難しいと思われるため、割愛
---	------	-------	--	--